

荒尾競馬の あゆみ

昭和3年

2月 競馬施行法認可を受ける。
3月 地元有志と合同で第1回競馬が開催。
出走馬は144頭数。

昭和30年

10月 熊本県と荒尾市の協議により
地方自治法による一部事務組合発足

昭和46年

6月 第1スタンドが完成

昭和49年

12月 第2スタンド増設工事・
管理棟新設工事が完成

昭和50年

4月 厩舎団地が完成(536馬房)
7月 勝馬投票券発売を機械化
(全面システム稼動)

昭和53年

4月 開設50周年式典を実施

平成元年

4月 勝馬投票券発払新機種
(フレックス券)を導入

平成7年

10月 JRA場外発売所開設

平成12年

6月 九州競馬発足
(荒尾・佐賀・中津競馬場)

平成13年

4月 荒尾・佐賀・岩手で姉妹提携

平成18年

4月 インターネット投票による動画配信

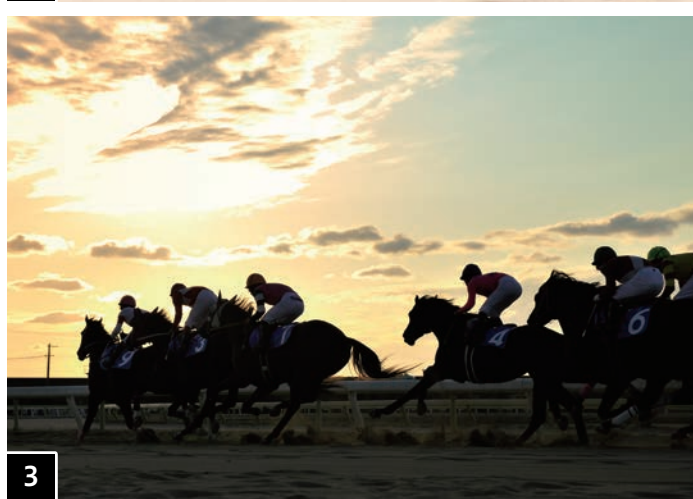
平成23年

9月 荒尾競馬廃止の方針を表明
12月 荒尾競馬最終開催

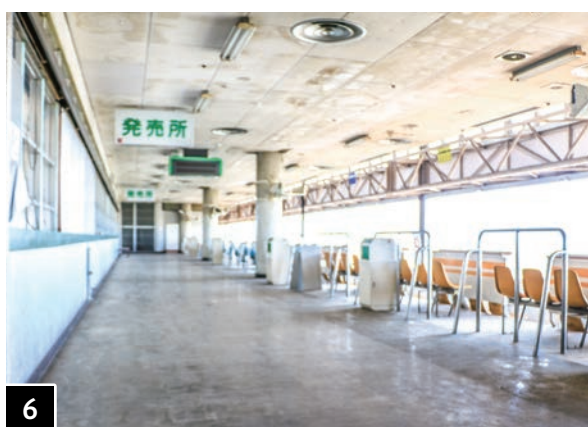
平成24年

3月 荒尾競馬組合解散

5 Arao City 2022.8



①力強くコースを走る競走馬たち。②勢いよくスタートを切った10頭。③有明海に沈む夕日をバックに走る風景が見られるのは荒尾競馬ならではの。④海が見える風光明媚な競馬場として親しまれました。⑤他の競馬場より馬を近くに感じられるのが魅力で、スタンドからは有明海が一望できました。⑥多くの人がそれぞれ予想をたて、馬券を買うために集まった発売所。



Last Run

今もなお、記憶に残るラストラン。

平成23年12月23日、年末の冷え込むなか荒尾競馬場の入口には早朝から開場を待つ長い列ができました。最後のレースを目に焼き付けようと約9千人も人が全国各地から訪れ、スタンドは満員。多くの人が最後まで競馬を楽しみ、拍手と歓声、労いの言葉、そして別れを惜しむ涙に包まれました。



実際に使用されていたゴール板は、今もなお「BAOO荒尾」前に残っています。▶

現在



あれから11年。
平成23年12月23日。当時現存する地方競馬場として最も古い歴史を誇り、日本最南端の地方競馬場だった荒尾競馬場が83年の歴史に幕を下ろしました。その後、馬券の場外発売所としてスタンド部分のみ利用されていました。今年6月に移転。荒尾競馬場跡地の開発が着々と進むなか、当時の姿のまま残っていたスタンドも、この秋解体が始まります。
一喜一憂、多くの人の感情が交差した荒尾競馬場。ついに最後の時を迎えますが、荒尾競馬場での思い出はきっと皆さんの心にいつまでも残ることでしょう。